

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第 658 号 平成 25 年 12 月 12 日

公表反対は誰の為（2）

まず、「順位付けや序列化の問題」について考えてみたいと思います。

学力調査は、学校の順位付けの為にしているものでない事は当然ですが、そうはいっても全ての学校の結果を公表すると、興味本位に学校を順位付けしようとする人間が出て来る事は十分考えられます。

私がかつて教育長として学力調査の結果を公表した際、マスコミから地域別の格差が分かる資料を示して欲しいという強い要求があった事を記憶しています。現在道教委では、教育局管内ごとに一定程度学力の状況が把握できる資料を提供しているのは、そうしたマスコミからの要望に配慮した結果でもあります。

今回の文部科学省の方針転換に関して、マスコミの論調には学校の序列化が進む事に懸念の声がありますが、そう懸念するならマスコミが自ら序列化に繋がる様な報道は控えるべきでしょう。

学力調査の結果の公表によって「学校の序列化」が進む可能性は、私も否定しません。結果を公表すれば、優劣、高低がより明確となり、学校間の比較は避けられないからです。ただ、「学校の序列化」というものは、学力調査の結果の公表を云々する以前に、既にある程度行われているのが現実ではないでしょうか。

東京から札幌に転勤して来た方から聞いた話ですが、東京では「札幌に転勤になったら円山地区に住むと良い。円山小学校はレベルが高いので、子どもはそこに入れたらよい」という話しになっていて、実際、円山地区で住宅を探すのは大変だったというのです。

市内の学校のレベルについて関心を持っているのは札幌市民も同様で、子どもの学校の事を考えて住む場所を選択している人も少なくありません。

つまり、地域の中では既に学校は評価されているのですが、学力調査の結果を公表すれば、その事がよりはっきりするという事でしょう。学校や教師が学力調査の結果の公表に反対するのは、まさにそこにあると思います。

さして客観的な根拠があるとは思えない今の学校間の序列が、学力調査の結果が公表される事で明確になってしまう。そうすると、今迄オブラートに包まれていた内実、つまり、「学校の教育実践や教師の指導力」に迄評価が及び事になる。学校や教師はその事を恐れているのではないか、というのはいい過ぎでしょうか。

学校や教師は、国語や算数（数学）といった一部の学力の結果だけで全体を評価するような事はあってはならないと主張して来ました。私も勿論そう思っています。そうであるなら、学力調査の結果がどうであれ、胸を張って自分達の学校経営や教育実践の成果を説明すべきでしょう。にもかかわらず、学力調査の結果を公表する事に「学校が序列化」されると恐れ、反対するのは、恐らく、国語と算数（数学）という、一部の教科による評価を跳ね返すだけの力のある教育実践が行われていないからではないか、と私には思えてなりません。

私は、市町村教育委員会が、学校間の序列化を進め、競争を煽る様な形で学力調査の結果を公表する事には反対です。

ただ、学校自身は、もっと保護者に対して、子ども達の学力の現状を理解出来る様情報を提供すべきです。同時に、今迄の学校における教育実践とその成果を検証し、その上で改善策を示す必要があります。

現実を直視し、その上で、学校の改善方策を明確に示して保護者の理解と協力を得る。そうした努力なしに、子ども達に確かな学力を身に付けさせる事は難しいでしょう。

私は、学校側の保護者に対する説明責任を果たそうという意思が希薄であるが故に、外野席からの情報開示の圧力が高まっているのだと思いますし、学校側はその事を良く自覚すべきではないでしょうか。（塾頭：吉田 洋一）